



重点施策 5

安全・安心な暮らしづくり

人口減少が続く中であっても、市民が安全で、安心して暮らし続けることができるまちづくりを推進します。

道路の整備については、子どもや高齢者、障害のある人に配慮した通学路や生活道路の段差の解消などを重視して取り組みます。

また、地域やバス・タクシー事業者等との連携により、きめ細かな公共交通網を構築するなど、子どもや高齢者、障害のある人の移動手段の確保に努めるとともに、河川、ため池、急傾斜地など防災工事の徹底や橋りょうの定期点検、河川護岸の改修工事など、安全を優先した公共インフラの整備に取り組むほか、特定空家^{※24}の倒壊や火災の未然防止を図ります。

さらに、防災行政無線等を十分に活用し、日頃から地域との連携を密にしながら実効性の高い防災訓練に取り組むとともに、地域防災の要となる消防団の充実に努めるなど、自然災害等から市民生活の安全を守り、市民が安心して暮らすことができる体制づくりに努めます。



※ 24 特定空家：周辺の生活環境の保全を図るために放置することが不適切な状態にある空き家のこと。



安全なインフラ整備

- 老朽化が進むインフラの危険箇所等の早期発見と適切な維持管理
- 障害のある人や高齢者の安全で安心な通行を実現するバリアフリー化
- 河川の氾濫、低地や市街地における浸水等対策設備の適切な維持管理

交通弱者の移動手段の確保

- 持続可能な公共交通網の構築および地域の実情に配慮した公共交通の確保

防災体制の充実

- 災害発生のおそれのある危険箇所の把握および防災訓練の実施による地域の防災力の向上
- 避難行動要支援者^{※25}に対する効果的な支援体制の整備の促進
- 地域の実情に応じた消防団組織の再編および円滑に消防団活動を実施できる環境の整備
- 資機材や装備の充実による消防団員の安全かつ効率的な活動の促進

まちづくりの指標

指標	単位	実績値	目標値 (R4)
身近な生活道路（市道）において、自動車や徒歩・自転車で通行する場合、安全だと「思う」、「どちらかといえば思う」人の割合	%	48.4 (H27)	53.0
伊万里市の防災対策によって、自分の生命や財産を守ることができる「思う」、「どちらかといえば思う」人の割合	%	31.9 (H27)	37.0
橋りょうの補修件数	橋	2 (H30)	18 (累計)
いまりんバス・地域コミュニティバス等の利用者数	人	71,455 (H29)	75,400

※ 25 避難行動要支援者：高齢者や障害のある人などの要配慮者のうち、災害発生時の避難等に特に支援を要する人のこと。